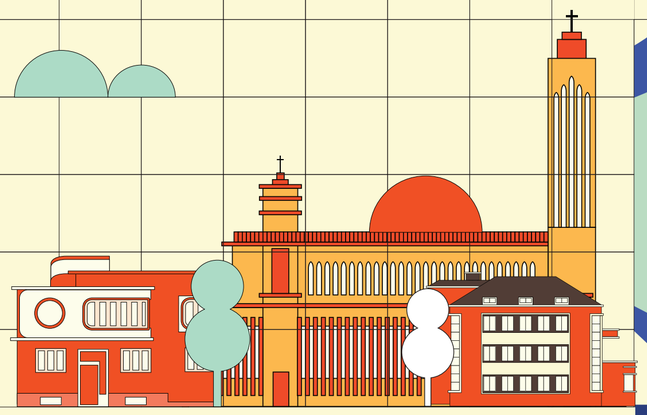
IT'S KAUNASTIC

モダニスト ガイド



詳細情報

書籍、ディレクトリ、ウェブページ、ツアー、ショー、スマートフォンアプリなど様々な形で、毎月カウナス近代建築の遺産が再発見されています。そうした発見は多ければ多いほど、カウナスの住民にとっても、旅行者にとってもプラスになるはずです。以下は私たちのお気に入りです：

MODERNIZMASATEICIAI.LT
建築・都市研究センター AUTC.LT
ARCHIMEDE.LT
カウナス　ユネスコデザイン都市
欧州遺産ラベル
"KAUNAS MODERNISM"
"EKSKURSAS"

OPTIMIZMO ARCHITEKTŪRA
（オプティミズム・アーキテクチャー）
KAUNAS 1918–2015. 建築ガイド
STOP JUOSTA (THE BARRICADE TAPE)

アプリ "KAUNAS OF 1919-1940"

観光情報

"KAUNAS IN"
Rotušės a. 15, Kaunas | +370 616 50991
info@kaunasin.lt | visit.kaunas.lt
#kaunastic #visitkaunas #kaunas2022

カウナスの通り

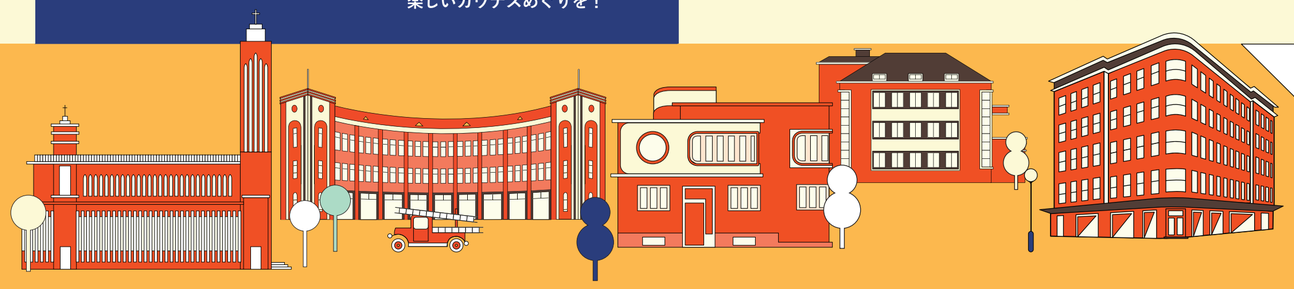
カウナス市が持つ豊かな財産の全てを小さな一つの地図の中に収めることはできないでしょう。ここには1919年から1940年にかけて建てられた1万2000戸もの建造物があります。まずは、戦間期に各国からの大使や駐在員らが暮らしたプトヴィンスキス通り、そしてドネライティス通り、ケストゥーティス通り、マイロニス通り、ミケヴィチュス通りを歩いてみてください。次に、ラミーベ公園のそばのトラカイ通りとブーガ通りを散策してみましょう。階段でラディアス地区まで上ったら、ヴァイジュガンタス通り、フリーカス通り、そしてペルクナス大通りがあります。カウナス郡立図書館やレリヤイ通り、ラダスタイ通り、トゥルピス通りにある木造の住宅建築群に迷い込んでみるのもいいでしょう。

欧州遺産ラベルの付いた建物のうちいくつかは無人だったり状態が良くないということにお気づきかもしれません。その場合は中にお入りいただけませんが、代わりに新しく塗りなおされたファサード（建物の正面部分）をお楽しみいただけます。多様性溢れるカウナス。この都市が持つその様々な顔のすべてを知らずして街歩きはできません。

楽しいカウナスめぐりを！

- V. Putvinskio g.
- K. Donelaičio g.
- Kęstučio g.
- Maironio g.
- A. Mickevičiaus g.
- Vaižganto g. / Fryko g. / Perkūno al.
- Trakų g. / Būgos g.
- Radastų / Tulpių / Lelijų 街区

建築家たち



一時的な首都となったカウナスは首都として都市を「建設」せねばなりませんでした。国外で学んでいたリトアニア人や外国人らをカウナスへ招き集め、この仕事にとりかからせました。イタリア、ドイツ、フランス、ロシア各国の学府で得られた知識が一つとなり、すぐに何百、何千もの新たな建築を生み出し、当時他国で盛んだった建築をカウナスのモダニズムへと融合させたのです。カウナスを造り上げた全ての建築家たちに触れることはできませんが、興味を持った皆様が独自に研究を続けてくださることを期待しています！

フェリクサス・ヴィズバラス
1880〜1966年

リガで学び、1918年までウクライナで活躍したこの建築家の軌跡は、カウナスの多くの近代建築の傑作と、アンタナス・スメトナ邸宅とで完成します。ヴィズバラスはカウナスとシュヴェントイ港の建設も指揮した人物です。1940年、リトアニアカトリック連合アティーティス(Ateitis)のメンバーだった彼はドイツへ移住しました。

ヴラディミラス・ドゥベネツキス
1888〜1932年

彼はリトアニア現代建築の先駆者の一人で、民族的様式の提唱者でもありました。ドゥベネツキスはロシアでリトアニア移民一家の元に生まれました。ペテルブルグ芸術学院で建築を学んだ後、1919年にリトアニアへ移り住みました。建築家であり、舞台美術家でもあった彼は、リトアニア芸術家協会及びリトアニア技師・建築家組合を創設したメンバーの一人でした。ドゥベネツキスが亡くなった際は、町全体で彼を弔おうとヴィータウタス通りに行列ができました。

カロリス・レイソナス
1894〜1981年

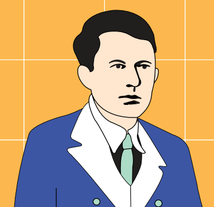
サンクトペテルブルク市民大学の建築学部を卒業したラトビア人、レイソナスはエンジニアとしてカウナスで働き、建設部門長まで勤め上げましたが、彼にリトアニアの市民権が与えられたのは1932年になってからのことでした。ちなみに、レイソナスは復活教会を設計している時にカトリックへ改宗しました。

エドムンダス・アルフォンサス・フリーカス
1876〜1944年

建築家の息子として生まれたエドムンダス・アルフォンサスは、サンクトペテルブルク土木工学大学で学び、ジョージアでキャリアをスタートさせました。カウナスの多くの建築物に加え、リトアニアの鉄道駅や教会などの設計も行いました。ジャリャカルニス地区には彼を讃えている唯一の場所、フリーカス通りがあります。

アルナス・フンカス
1898〜1957年

革新的機能主義を唱えた彼はスモレンスクで生まれ、二十歳でカウナスに拠点を移しました。建築の構法に注力する一方で、内装のデザインにも興味を持っていました。戦後はドイツのバルティック大学で教鞭をとりました。



ヴィータウタス・ランズベルギス＝ジェムカルニス
1893〜1993年

リトアニアで最も名のある名家出身で100歳まで生きたこの人物について語るなら、彼が残した豊かな遺産だけでなく、その華やかな伝記についても触れなければなりません。彼は1904年にロシアからリトアニアにやって来ました。リガ、カウナス、ローマで学んだ後、リトアニアの自由闘争の志願兵として、また暫定政府の大臣として働く機会を得ました。その後、ドイツ、さらにはオーストラリアへ移り、1959年にふたたびリトアニアに戻り、建築家として数十年活動しました。

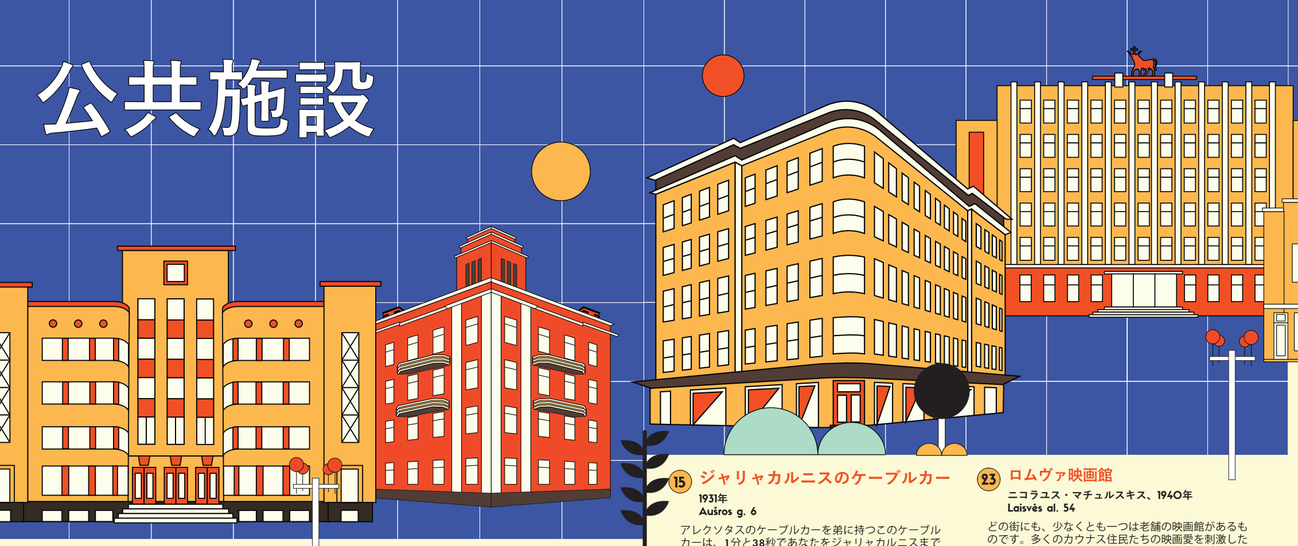
はじめまして。●

ユネスコデザイン都市・カウナスへようこそ！カウナスは、第一共和国時代に首都と呼ばれました。1919年から1940年の間、カウナスはヴィリニュスに代わって一時的な首都となりましたが、その時代がなければ今のカウナスは存在していなかったでしょう。カウナスはロシア行政下の小さな町から、ヨーロッパ水準を満たす首都へと、突如変身しなければなりませんでした。そのためには、とにかくスピードが必要でした。金銭的な投資や一致団結も必要でした。しかし何よりも信じることが大切でした。色々な理由で、仕事や勉強のために海外で生活していた専門家たちがカウナスに集められ、地域住民や実業家、そして政治家たちと互いに協力し合いました。都市の近代的かつモダニズム的な中心部と、オフィス、病院、学校、住宅、工場などの工業建築物が、一晩のうちに…、ということはさすがにありませんでしたが、かなりの速さで出来上がっていきました。

2022年に欧州文化都市となるカウナスは、目の前に広がる景色の裏に隠された歴史という部分に焦点を当てています。この『モダニスト・ガイド』は皆さんがより簡単にその知識に触れられるように、そしてその先へと導くための存在です。さて、欧州遺産ラベルの付いた建物のうちいくつかは無人だったり状態が良くないということにお気づきかもしれません。その場合は中にお入りいただけませんが、代わりに新しく塗りなおされたファサード(建物の正面部分)をお楽しみいただけます。多様性溢れるカウナス。この都市が持つその様々な顔のすべてを知らずして街歩きはできません。
楽しいカウナスめぐりを！

2019年出版

公共施設



1 中央郵便局
フェリクサス・ヴィズバラス、1931年
Laisvės al. 102

この建物に見られる特徴は、国民性とモダニズムの本質的な結びつきです。郵便局として使用されているのは建物のごく一部で、近い将来、文化的な場所として一般に開放されることを多くの人が望んでいます。ここからポストカードを送ってみてはいかがでしょうか。

2 パジャンガ社
フェリクサス・ヴィズバラス、1934年
Laisvės al. 53

新聞社に屋上テラス付きレストラン、フェリクサス・ヴィズバラスが設計したこの建物は、戦間期には常ににぎわう場所でした。 長年のソビエト占領下で、インテリア・ロジックは破壊されました。その後、大学に場所を貸していましたが、現在は空スペースで新たな未来がやってくるのを待っています。

3 酪農センター
ヴィータウタス・ランズベルギス＝ジェムカルニス、1932年
Laisvės al. 55

独創的なシンプルさと、限られたスペースのロットで圧搾を可能にした多機能性は、すでに遠ざ去った過去のものとなりました。大学の学生たちが退去した後の酪農センターは、デザインウィークなどの特別な機会にしか登場することはありません。

4 カウナス警察署
(旧カウナス市政機関)

ヴィータウタス・ランズベルギス＝ジェムカルニス、1933年
Laisvės al. 14 / Vytauto pr. 91

この建物を訪れたことがないのは幸運だという人もいるでしょう。戦間期から今日まで、この場所はその役割を保ち続けており、その威厳と頑なさは健在です。ヴィータウタス大通りを挟んで向かい側から建物全体を見るのがいいでしょう。

5 科学技術学部
(旧研究所)

ヴィータウタス・ランズベルギス＝ジェムカルニス、1935年
Radvilėnų pl. 14

この施設内を毎日走り回る学生たちは、果たして自分が歴史に触れる特別なチャンスを持っていることに気づいているのでしょうか。特別な命令により作られたこの一流の設備が、支配者によって奪われることも取り除かれることもなかったのは、建設中あえて建物の外側に取り付けられたからに他ならないのです。

6 カウナス郡立図書館
(旧商工会議所)

ヴィータウタス・ランズベルギス＝ジェムカルニス、1938年
K. Donelaičio g. 8

都市部の主要なストリート、K.ドネライティス通りのシンボルの一つであるこの建物は、その価値と大きさが損なわれることなく存在し続けています。その理由は、戦後周りの環境に十分配慮してこの図書館を建設したからだと言われています。ちなみに元々は戦争博物館の近くに建設される予定だったようです。

7 ロマナス・ポロヴィンスカスのアパート
アルナス・フンカス、1932年
K. Donelaičio g. 22

活気に満ちた色が、ひねりのきいた典型的なカウナスらしいファサードを際立たせています。ジャリャカルニスのご近所であるこの建物を住宅建築のリストで紹介するべきかもしれませんが、今日では居住スペースというよりもオフィススペースとしての要素が強いのです。

8 リトアニア体育大学中央校舎
(旧政府機関(健康文化局))

ヴィータウタス・ランズベルギス・ジェムカルニス、1934年
Sporto g. 6

ソビエト占領時に建て増しされた庁舎は、経済危機により当初の建築計画がなくなり、予定よりも小さいものとなりました。しかしながら、今日、この建物はその他の施設と運動競技のすばらしさを形作る存在であり、スポーツの場として活用されています。

9 スポーツホール
アナトリユス・ロゼンブリュマス、1939年
Perkūno al. 5

1937年、リトアニアが欧州選手権を制した後、バスケットボールはすぐに大流行し、1939年にはカウナスでチャンピオンシップが開催されることになりました。で、場所はどうする？建築家たちの誰もがこの前途多難な計画に難色を示しました。何せ、初のバスケットボール競技場を短期間で作らなければならないわけですから。しかし、当時最も有名なエンジニアだったアナトリユス・ロゼンブリュマスは首を縦に振りました。カウナス・ジャルギリス（カウナスのバスケットボールチーム）のファンは皆、今でも彼に感謝の念を抱いています。

10 リトアニア健康科学大学中央校舎
(旧ヴィータウタス・マグヌス大学医学部)

ヴラディミラス・ドゥベネツキス、1933年
A. Mickevičiaus g. 9

プリュッセル大学を参考に設計されたこの建物をスパストゥヴィニンカス通りからも眺めることができます。この通りから見れば、よりモダンに見えるでしょう。面白いことに、ソビエト占領時、パイロットのステポナス・ダリュスとスタシース・ギレーナスの遺体がこの地下に密かに隠されていたというのです。しかもそれ以前はリトアニアで最初の火葬場が設けられていました。

11 士官クラブ
スタシース・クドカス、カジース・クリシチュカイティス、ヨナス・コヴァ＝コヴァルスキス、1937年
A. Mickevičiaus g. 19

代表的な建物の外観が持つその繊細さとエスニックな雰囲気があなたをアッと言わせることでしょう。内装もエスニックを象徴するもので溢れています。高位の士官たちにふさわしいその内部をゆっくりと歩いて見て回るには一時間は必要だという人もいるかもしれません。

12 ヴィータウタス大公戦争博物館及びM.K.チュルリョーニス国立美術館
ヴラディミラス・ドゥベネツキス、カロリス・レイソナス、カジース・クリシチュカイティス、1936年
K. Donelaičio g. 65 / V. Putvinskio g. 55

カウナスを訪れる旅行者たちの中には、町の二つの大きな博物館が実は一つの建物にあることを知らない人がいるかもしれません。カウナスが暫定首都だった時代に冠を授かったこの建物は（チュルリョーニス美術館は正面部分が王冠のようになっているのです。）一日で中の展示と建築をすべて見て回るには大きすぎる場所です。また、フランスやイタリアの例から刺激を受けたという「国家たるもの」を感じさせる、戦争博物館の庭園も忘れてはいけませんね。

13 カウナス市役所
(旧国家貯蓄銀行)

アルナス・フンカス、アドルファス・ルコシャイティス、ブロニュス・エルズベルガス、1940年
Laisvės al. 96

建物が整備される以前、リトアニアは占領下にありました。 その後、建物の機能も違うものになりましたが、見所までなくなったわけではありません。回転ドアやエスニックな内装、そしてグランドホールの素敵なガラスの天井が、きっとあなたの目を引くでしょう。

14 アレクソタスのケーブルカー
1935年
Amerikos lietuvių g. 6

戦間期の近代化のシンボルとも言える二つのケーブルカー、どちらも未だに残っていて動いているのはまさに奇跡です。アレクソタスから見渡せるパノラマはケーブルカーで登っていくことでより美しく見えます。

15 ジャリャカルニスのケーブルカー
1931年
Aušros g. 6

アレクソタスのケーブルカーを弟に持つこのケーブルカーは、1分と38秒であなたをジャリャカルニスまでお連れします。自転車の持ち込みも追加料金はありません。

16 カウナス工科大学中央校舎（旧農業銀行）
カロリス・レイソナス、1935年
K. Donelaičio g. 73

リトアニアの詩人、サロメーヤ・ネーリスの夫、ペルナルダス・プチャスが造り上げた天井とローレリーフを見れば、かつてこの建物で農家たちの運命が定められてきたことに思いを馳せることができるでしょう。ちなみに当初は戦争博物館の側に建設予定でした。

17 復活教会
カロリス・レイソナス、1933～2004年
Žemaičių g. 31A

独立と強いリトアニアを象徴するこの建物の長期にわたる建設は、その目的に意味を持たせるものでした。ソ連の占領により建築は中断を余儀なくされました。（およそ半世紀にわたってこの教会は無線工場として使われていました。）多くの人々の努力と細部へのこだわりによってこの教会は確かなものにになりました。ラトビア生まれの建築家カロリス・レイソナスはこの建設のためにカトリックに改宗したという逸話があります。

18 カルヴァン派教会
カロリス・レイソナス、1937年
E. Ožeškienės g. 41

サザァノリスの丘を登っていくと、裸の木々が並ぶあたりで、どの建物も似たような造りだと気付くでしょう。道の左右にも並ぶこれらの建築は、占領前にはまだ未完成のものでした。食堂やスポーツホールもある教会ですが、復活教会とは注目はされていません。しかし、この建物はいずれ教区教会として戻ることが決まっています。さて、その後はどうなるのでしょうか。

19 キリスト聖心教会
アルギルダス・シャルカウスキス、アドルファス・ネティーカサ、プラナス・マルクーナス、1935～1938年
A. Juozapavičiaus pr. 60

建物の屋根は、薄肉鉄筋コンクリートを使った建築としてはリトアニアで初めての例でした。このモダニズム様式の教会は、リトアニアの有名な美術家リュータス・トルイキーエスによる天使のフレスコ画で装飾されています。後方の窓には、戦後スタシース・ウシンスカスが作ったステンドグラスが。

20 ヨナス・ヤブロンスキス　ギムナジウム（旧ヨナス・ヤブロンスキス小学校）
アンタナス・ヨキマス、1932年
Aušros g. 3

リトアニアの学校の中で、初めて高度な機能理論を用いて設計された学校です。ジャリャカルニス地区の未来についての戦略化の過程で、復活協会のすぐそばに配置されました。この学校がすぐに名門校となり、その後も長く残っていたことは当然のことだと言えるでしょう。

21 オウシュラ映画館
作者不詳、1939年
Aušros g. 18

800人収容可能なこの映画館はカウナスに16館あった中でも最大規模のものでした。レパートリーの多さもさることながら、自動空気清浄機やスタッフの制服なども魅力的でした。現在はスカッシュクラブとして運営されています。

22 カウナス工科大学プロギムナジウム（旧サンチャイギムナジウム）
スタシース・クドカス、1938年
Skuodo g. 27

戦間期に建てられた豊かな表現力を持つこの建築には、100万リタスもの費用がかかったと言われています。卒業生には、作家のユルギス・ギムベリス、女優のモニカ・ミロナイテなどを多くのシャンチェイギ地区の著名人たちがいます。

23 ロムヴァ映画館
ニコラユス・マチュルスキス、1940年
Laisvės al. 54

どの街にも、少なくとも一つは老舗の映画館があるものです。多くのカウナス住民たちの映画愛を刺激した小さなアールデコの城・ロムヴァの活動家たちは、複雑に入り組んだしがらみからこの映画館を取り戻さなければなりませんでした。現在、建物は改装中です。

24 パスカス映画館
ユオザス・セガラウスカス、ヨクーバス・ラビナヴィチュス、A.パシュケヴィチュス、1940年
Savanorių pr. 124

第一共和国時代の最後の映画館であるこの建物は、設備が優れているわけでも一番近代的というわけでもありませんでした。当時、通行人たちの目を引いたのは建物の正面部分のアールデコでした。現在はエンターテイメント施設となっています。

25 ダイナ映画館
スタシース・クドカス、アンタナス・ブレイメリス、1936年
Savanorių pr. 74

クドカスらしさのある上品な映画館は、市内で最も近代的な映画館の一つであり、ライスペス通りの外に位置する最初のシネマでした。そして、ネオンで輝く映画館でもありました。今日、誰からも関心を持たれなくなったダイナの美しさを白黒写真の中でしか見られないのは、残念なことです。

26 カウナス芸術ギムナジウム（旧ヤドヴィガ&ユオザス・トゥーベリス邸宅）
フェリクサス・ヴィズバラス、1932年
Dainavos g. 1

市内中心部へと続く独自の階段を持つ建物です が、ジャリャカルニス地区にある建築の全てにこの特徴が備わっているわけではないのです。この場所にはかつて、首相とその夫人など多くの著名なゲストたちが作り上げてきたオーラがありましたが、ロシアの占領により瞬く間に破壊されてしまいます。しかし、生まれ変わるのもまた、あっという間でした。戦争直後には国で初めての中等教育の美術学校として設立され、数多くの才能あふれるカウナス市民たちを育ててきました。

27 カウナス・アーティストハウス（旧ローマ法王庁大使館）
ヴィータウタス・ランズベルギス・ジェムカルニス、1931年
V. Putvinskio g. 56

都市のこの文化的中心について話す際にバチカンに言及されることがよくあります。特筆すべきは、教皇庁からの使者がここへ足住したことはないものの、この建物はカウナスで唯一ローマ法王庁大使館のために設計されたものであるということです。その後小児病院へと変わり、およそ半世紀前から今までの長い間は芸術家たちの場所となりました。

28 カウナス国立フィルハーモニーホール（旧国会兼法務省）
エドムンダス・アルフォンサス・フリーカス、1929年
L. Sapiegos g. 5

新古典主義、アールデコ、民族モチーフ…建築家たちは「不毛な時代」の中に多くの機能性や数十年後に上手く変容を遂げた創造的な方法を取り入れてきました。今あなたが座ってクラシックコンサートを聴いているまさにその場所で、かつて法案が採択されていたなんて、誰が想像できるでしょう。

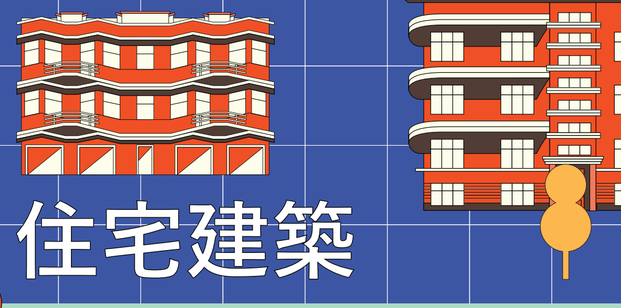
29 消防署
エドムンダス・アルフォンサス・フリーカス、プラナス・マルクーナス、1932年
I. Kanto g. 1

今日では考えられないことですが、戦間期にはこの消防署がV.クディルカ公立図書館のビジネス・サービスセンターを兼ねていました。カンタス通りとネムナス通りとをつなぐこの建物は間違いなくリトアニアで最も記憶に残る建築でしょう。

30 リトアニア銀行
ミーコラス・ソンガイラ、1929年
Maironio g. 25

堂々としたフォルムと豪華な内装は、第一共和国が輝かしい大望を抱いていたことを物語っています。現在は、ここを訪れるには事前に十分な計画が必要ですが（ツアーは稀です）、戦間期のカウナスの秘密を発見できる喜びには代えられないでしょう。

住宅建築



31 杉原ハウス（旧ユオザス・トンクーナス邸宅／日本領事館）
ユオザス・ミルヴィーダス、1939年
Vaižganto g. 30

ジャリャカルニス地区では典型的な、坂の上にあるチャーミングな邸宅。ここは歴史的に非常に重要な場所です。何千ものユダヤ人をホロコーストから救った日本領事・杉原千畝が暮らし、業務を行っていた場所なのですから。

32 カウナス・スポーツ医学センター（旧ユダヤ人OZE会）
クレヒメール（シュラーゲンハイム）、グリゴリユス・マゼリス、1926年
D. Poškos g. 1

狭い路地に思いがけず存在するモダニズムとアールデコの建物、カウナスで採用された計画でしたが作られたのは別の場所でした。残念なことに1979年の修復中に大幅に修正されてしまいました。

33 リトアニア健康科学大学カウナス病院
ユルバン・カッサン、エリー・ウーチャノフ、フェリクサス・ビエリンスキス、1939年
Eivenių g. 2

第一共和国時代の最も野心的な建設計画、診療所の一部を配置しなおし、新しいブロックを建設していく、そんな計画が今日でも続いています。ところで、戦争が始まったときに診療所の正面部分がカモフラージュで隠されていたという事実はご存知でしたか。

34 プラナス・マジーリス助産院（旧プラナス・マジーリス病院）
ロマナス・ステイクーナス、1936年
V. Putvinskio g. 3

リトアニアの最も裕福だった医師の一人が未来のために自らの資産をここへ投資しました。それから80年後の今日、この病院は新たなカウナスの市民がこの世界へとやってくる場所となりました。

35 カウナス中央外来診療所（旧患者基金）
アンタナス・ノヴィツキス、ヴィータウタス・ランズベルギス＝ジェムカルニス、1935年
A. Mickevičiaus g. 4

現在では適度にスタイリッシュだと見なされるものでも、戦間期には近現代的で進歩的なものとど捉えられていました。ここはリトアニアで初めて医療に特化した建物で、他の都市にも影響を与えました。

36 タタール　モスク
ヴァツロヴァス・ミヒネヴィチュス、アドルファス・ネティーカサ、1933年
Totorių g. 6

バルト地域唯一のレンガつくりのモスクは、タタールをリトアニアへ招き入れたヴィータウタス大公の記念碑として登場しました。

37 インターメディックス　ビル（旧シュヴィエサ印刷所及び自動電話交換局）
フェリクサス・ヴィズバラス、1935年
E. Ožeškienės g. 10

ドイツの首都に精通している人は、この建物が持つ特徴がベルリンの電気モーター工場によく似ていることに気が付くでしょう。完成から一年も経っていないこの建物は、外から見ると静かで単調に見えるかもしれませんね。

38 ユダヤ人銀行（動物博物館に統合）
グリゴリユス・マゼリス、ミカス・グロジェンスキス、1925年
Laisvės al. 106

戦間期にはにぎわうアーケードや、映画館や図書館を持つ複合施設で、アールデコ調の要素が豊富に取り入れられていました。博物館の爬虫類コーナーへ行けば、銀行の時代の工事の名残を見ることができます。背面部のファサードはE.オジェシキエネ通りから確認できます。

39 カウナス工科大学文化センター（旧アテイティニンカイ会館）
フェリクサス・ヴィズバラス、アルギルダス・シャルカウスキス、1929年、1933年
Laisvės al. 13

暫定首都としてカウナスが急速に発展したことを示すものとして、当時のモダニズム様式の屋敷などが近代化のために改装されていったという事実があります。ちなみに、当初建物は4階建てとして設計されていましたが、ファサードをシンプルにした後、5階建ての建物になりました。そこから高い費用対効果を望む経済的な特徴が見て取れるでしょう。

40 MDヨナス・バサナヴィチュス軍事医学局（旧ENT病院）
ヴィータウタス・ランズベルギス＝ジェムカルニス、1930年
Vytauto pr. 49

国家の首長は国内初の大学病院で治療を受け、彼の死後、その名前が現在の病院名となりました。

41 カウナス地区患者基金
カロリス・レイソナス、1939年
Aukštaičių g. 10

シモナス・モクーナス司祭は、崇高な理由のために多くの人々を集めました。その中には無料で奉仕した建築家のレイソナスもいました。残念なことに、年配の人々は魅力的で真に現代的なこの建物で長い間過ごすことはありませんでした。占領後は結核病院となりました。

42 民族文化センター会館（旧労働会議所）
アドルファス・ルコシャイティス、アンタナス・ノヴィツキス、1940年
Vytauto pr. 79

食堂から読書室、劇場にホテル…当時のリトアニアで、他の地域の労働者はそのようなサービスを受けることなどできませんでした。しかし、ゲシュタポによる没収で、ここでのサービスも長くは続きませんでした。ソビエト時代、適度に見栄えのするこの建物は労働会議所として機能し、現在は徐々に21世紀のニーズを受け入れつつあります。

43 国土公共事業所（旧ロイズ・リトアニア保険会社）
アルナス・フンカス、1938年
L. Sapiegos g. 10

急成長の一時首都であったにもかかわらず、カウナスに本社を置く民間企業はあまり多くありませんでした。しかし保険ブローカーたちはフンカスの仕事をいたく気に入り、建物のファサードの絵図をそのまま会社のレターヘッドのロゴとして使用しました。

44 ジャリャカルニス浄水場（旧ジャリャカルニス水道局）
スタシース・クドカス、フェリクサス・ビエリンスキス、1938年
Aukštaičių g. 43

水道局は都市であることの証、そしてその建物はジャリャカルニスで最もわかりやすい彫刻で飾られていました。その名も『水を運ぶ者』（彫刻家プロニュス・ブンジスによる）。この水道局に勤めていたエンジニアの一人は、リトアニアで初めて日本語と日本文学に精通した人物、ステポナス・カイリースでした。近くにはカウカス階段があります。その階段で市の中心部へと行くことができますが、耐震性は戦間期に失われてしまったということにご留意ください。

45 酪農センター
ヴィータウタス・ランズベルギス＝ジェムカルニス、ブロニュス・エルズベルガス、ヨナス・コヴァ＝コヴァルスキス、1939年
Karaliaus Mindaugo pr. / Prietiločio g.

誰もがこの噴水の隣にある酪農センターを知っています。しかしこの興味深い建物は企業のトップたちの建物に過ぎないのです。実際の酪農家たちはネムナス堤頭で生活し、リトアニア全土の流れを指揮していました。現在はそこで暮らすことも可能です。

46 児童文学博物館（旧ドーマ＆ミーコラス・シュレジェヴィチュス邸宅）
レオナス・リタス、1932年
K. Donelaičio g. 13

建物内部の中庭には、この建築の美しさが広がりを見せています。ミーコラス・シュレジェヴィチュス首相とドーマ夫人はこの邸宅の部屋をいくつか借りていました。住人の中には作家のペトラス・ツヴィルカもいました。現在、マイロニス・リトアニア文学博物館の児童文学コーナーがここに配置されているのは、なんとも象徴的です。

47 カウナス地区政府指令本部（旧タウベ＝フェイベ・エルシュテイニエネのアパート）
レイバ・ジマナス、イサオカス・トゥラクマナス、1935年
L. Sapiegos g. 4

今日の視点から考えれば、戦間期にこの微妙な建物がカウナスの裕福な実業家たちの住まいとなっていたことは想像し難いでしょう。建てられた直後に、このキュープのような建物は「市内で最も美しいファザード賞」を受賞しました。

48 起業家ヨナス・ラベーナスのアパート
フェリクサス・ヴィズバラス、1932年
Kęstučio g. 38

当時、カウナスの三大「摩天楼」の一つ、2017年の改装後その魅力が開花し始めたこの建物を所有していたのはマイスタス社の社長兼パジェンガ印刷所の設立者でした。目の肥えた建築ファンたちなら中央郵便局との類似点に気が付くでしょう。

49 スタシース・クドカス邸宅
1938年
V. Mykolaičio-Putino g. 11

ジャリャカルニスへと続く狭い階段を上っていると、洗練された門とまるで小さなイタリアを思わせる庭があなたの目を惹くでしょう。庭の中には、戦間期に最も有名だった建築家が自ら設計した自宅が建っています。建築家としてこれ以上責任重大な仕事が他にあるでしょうか。

50 トゥルペ共同アパート
アンタナス・マツィヤウスカス、1926年
A. Mickevičiaus g. 15

カウナス初の共同アパートの一つ。その建築様式がナショナル・スタイルを模索していたことが伺い知れます。

51 プタス社のアパート
ヨナス・クリシチュカイティス、1932年
Trakų g. 5

戦時中、このミニマル建築の建物はリトアニア最高裁判所の特級官たち（最も地位の高い役職）の住まいで、その中にはこの建物を設計した建築家の父親や、ハーヴァードの教授ヴィータウタス・カヴァリスの一家なども暮らしていました。

52 ユオザス・ダウギルダスのアパート
ヴラディミラス・ドゥベネツキス、1931年
Vytauto pr. 30

第一共和国時代の初頭、ヴィータウタス通りは、まだ都市の大通りとなる過程の中にあり、立ち並ぶ建物のほとんどは田舎風のものばかりでした。その中で唯一ドロベー社の社長のモダンな邸宅だけが例外でした。ここはかつてはフランス領事館としても使われました。

53 チェスロヴァス・パツェヴィチュスの邸宅
ヴセヴォロダス・コピーロヴァス、1934年
Vydūno al. 59

このミニマルな小さい家の前を何十回も車で通り過ぎたことがあるかもしれません。次に機会があれば、スピードを落とし、この家が持つ、ミース・ファン・デル・ローエが提唱した『レス・イズ・モア（より少ないことはより豊かである）』の美学を堪能すべきです。これは決して大げさな話ではなく、1935年にこの邸宅の所有者は「最も美しく快適なレンガ造りの家」という賞を受賞しているのですから。

54 プラナス・グダヴィチュス医師のアパート
エドムンダス・アルフォンサス・フリーカス、1929年
Gedimino g. 48

著名な医師グダヴィチュスはこの建物の住人の多様性に大きな刺激をもたらしました。常に多くの医師たちがここに暮らしたのです。外観の改装は2017年に終了し、内部は、戦間期の面影を残しつつ新世代のカウナスを迎える新しい時代の始まりを見せてくれます。ぜひお立ち寄りください。

55 アレクサンドラ・イルイニエネーの家
アルナス・フンカス、1934年
K. Donelaičio g. 19

この通り全体で、いや、おそらくヤウヤミエスティス（新市街地）全体で最も美しいファサードが、ついに眠りから目覚め、全ての建築ファンの心を射止めます。まもなく内装もモダンなものになるでしょう。近々インテリアも近代的なものになるでしょう。 しかも、リトアニア独立100周年のために2018年に欧州各地を周っている「オブテ ミスム建築展」のロゴとその本旨は、実はこの建物の大きな円形窓からインスパイアされたものだということ、ご存知でしたか。

56 モゼ・ボスヴィアンスキス＆ヒルシャス・クリサスのアパート
ヨクーバス・ペトラス、1928年
Vytauto pr. 58

カウナス建築の代表的な形状とは言えないこの建物は西欧の雑誌から着想を得たものだと言われています。結果的に、アールヌーボーとアールデコの表現により際立った素晴らしい建築となりました。

57 マティヨシャイチャイの家
K. Donelaičio g. 9

二つの大通りに隠れたこの住宅建築は、最近すてきな建築家たちの手に渡りました。ですから、普通の通りから少し外れてこの建物を見ようという機会もあるでしょう。作曲家のパリース・トゥヴァリオナスがかつて暮らしていたというのも、このアパートの重要なポイントです。

58 エルチャナン・エルケスのアパート
ミカス・グロジェンスキス、1930年
Kęstučio g. 8

カウナスのゲットーで重要な地位を任されて、悲劇の運命を辿ったユダヤ人医師、彼が所有していたこのアパートは都市の機能主義に類似した初期のモダニズムの一例です。ここにはエルケス一家が暮らす傍ら、テナントや小さいクリニック、最初のモテンテソーリ幼稚園も入っていました。開戦の直前はフィンランド大使館として使われていました。

59 ラグティスのアパート
ヴラディミラス・ドゥベネツキス、ミーコラス・ソンガイラ、1924年
Savanorių pr. 9

もしこの建物を見てカウナス国立音楽劇場を思い出すなら、それは素晴らしいことです。というのも、二人の建築家は醸造所で働く人たちのためにこのアパートを設計しましたが、同時に国立劇場も手掛けていたのです。ラグティスの適度な清潔さへのこだわりで、この建物も輝くことでしょう。

60 パウリナ・カルヴァイキーテ医師とヴァルダス・ラシャス医師のアパート
スタシース・クドカス、1933年
Laisvės al. 3

カウナスクリニックの創立者であるラシャス医師は、生活はしていなかったものの、このアパートに多く投資しました。第二の家主は、リトアニア初の放射線技師で、同僚と共にこの建物にX線用の個室を設置しました。ライスペス通りの静かな場所に佇むタイリッシュなこのアパートは、まるでポストカードから抜け出してきたように絵になる建物です。

61 モゼ＆マルカ・チャイムソナスのアパート
ヴィータウタス・ランズベルギス＝ジェムカルニス、1930年
Maironio g. 13

「謙虚さ」とはある種の主張です。著名な画家ムスティスラヴァス・ドブジンスキスが5階の部屋を借りていたというこのアパートはカウナスで最もモダンな建築の一つであり、最も背の高い建物の一つでもあります。

62 エリアス・シュナイダーのアパート
スタシース・クドカス、1938年
Vaidilutės g. 3

ケストゥーティス通りを歩いていると、立ち入るべき中庭が現れます。パティオの中には、優美なラインが特徴的で、控えめながらもどこか印象的なマンションがあります。 もし招き入れてもらえたら、士官クラブの建物との共通点を見つけられるでしょう。

63 プラネ・ドゥビンスカイテのアパート
レイバ・ジマナス、1938年
V. Putvinskio g. 22

専門家たちはここを禁欲的な家だと呼びます。でも想像してみてください。ケーブルカーへと急ぐカウナス市民を眺めながら、朝の儀式のごとく飲むコーヒー、それだけでインスピレーションが掻き立てられるはずです。

64 アデレ＆パウリナ・ガラウネのアパート
アルナス・フンカス、1932年
Vydūno al. 2

幸いなことに、建築的・文化的・歴史的に重要なこの建物は持ち主の親族によりカウナスに寄贈されました。今日、ガラウネスの家は、パウリユス・ガラウネがかつて館長を務めた国立チュルリョーニス美術館の一部として機能しています。美術館のスタッフたちは、アジュオリナスに隣接するこの家の中で行われている興味深い議論について喜んで教えてくれるでしょう。

65 エレーナ・パロニエネ＆ペトラス・ヴィツツキスのアパート
ブロニュス・エルズベルガス、1933年
Sporto g. 2

建物の3階の窓がプラスチック製の「装飾」であっても、「本物」のドアは一見の価値があります。もしこの建物が自ら語ることができたとしたら、あなたにメトロポリスレストランの持ち主やテナントについての多くの話をしてくれるでしょう。

66 ペトラス・クリマス邸宅『エグルーテ』
フェリクサス・ヴィズバラス、1929年
Vaižganto g. 25

建物に我が子の名前を付けるとは、この父親はどれだけ娘を愛していたことでしょうか。しかもここは、ただの建物ではありません。外交官ペトラス・クリマスは非凡な人物でしたが、海外での仕事のためにこのモダンなお城を楽しむことができませんでした。かわりに、ユオザス・トゥマス＝ヴァイジュガンタスが自分の名を冠した通りに建つこの家で暮らしました。（建物があるのはヴァイジュガンタス通り。）

67 ロジェ＆ヨナス・リンケヴィチュスの家
アレクサンドラス・ゴルデヴィチュス、1935年
Lydos g. 3

リーダ通りはカウナスの中で最も短い通りですが、K.ネライティス通りから離れてこの素敵なアパートを訪れるのには他にも理由があります。ほら、敷地内の半円形の塔でアフタヌーンティーを楽しむ自分の姿が浮かんできませんか。

68 ミナ・コトカウスキエネのアパート、
作者不詳、1930年
Laisvės al. 69

ライスペス通りではモダニズムを目にすることはあまりないでしょう。ここは典型的なリトアニアの建築様式ではありませんが、表現力豊かなアールデコ様式を持つ魅力的な建物です。このような建物は1930年代のカウナスでは重要な出来事だったに違いありません。